

第36回 県政に関する世論調査の結果について

平成20年12月25日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、本年8月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康と福祉、千葉県の農産物、市民活動、地方分権、千葉県の施策・政策、広報・広聴活動について県民の意識調査を行いました。

さらに、「ゆめ半島千葉国体」（第65回国民体育大会）、「ゆめ半島千葉大会」（第10回全国障害者スポーツ大会）及び「県政への要望」について調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収）

(5) 調査時期 平成20年8月11日～9月1日

2 回収結果

有効回収数（率） 1,617（53.9%）

3 調査の項目

(1) 県民意識調査

①環境と生活について

②健康と福祉について

③千葉県の農産物について

④市民活動について

⑤地方分権について

⑥千葉県の施策・政策について

⑦広報・広聴活動について

(2) 国体・全国障害者スポーツ大会

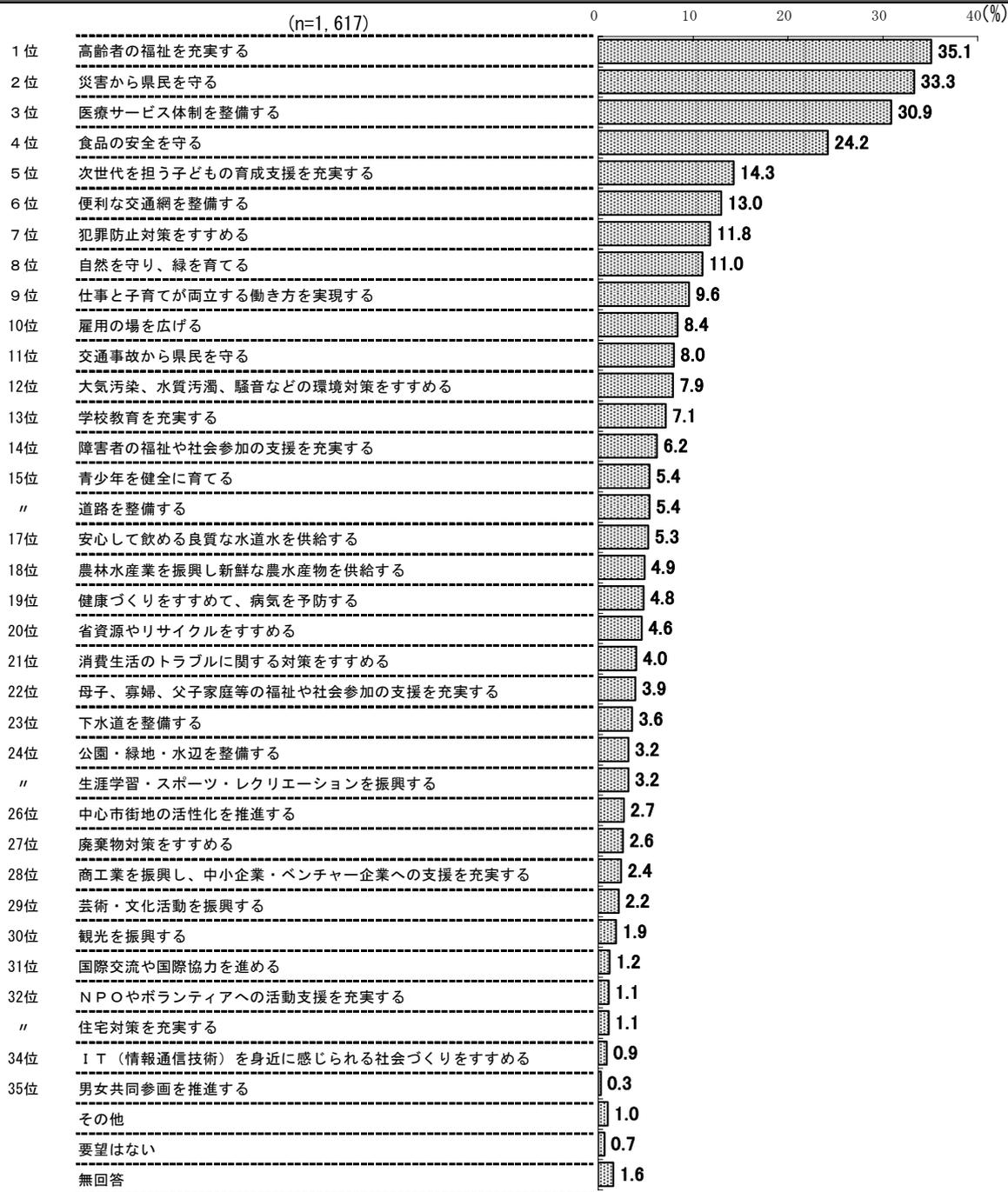
(3) 県政への要望

4. 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

(複数回答：3つまで)

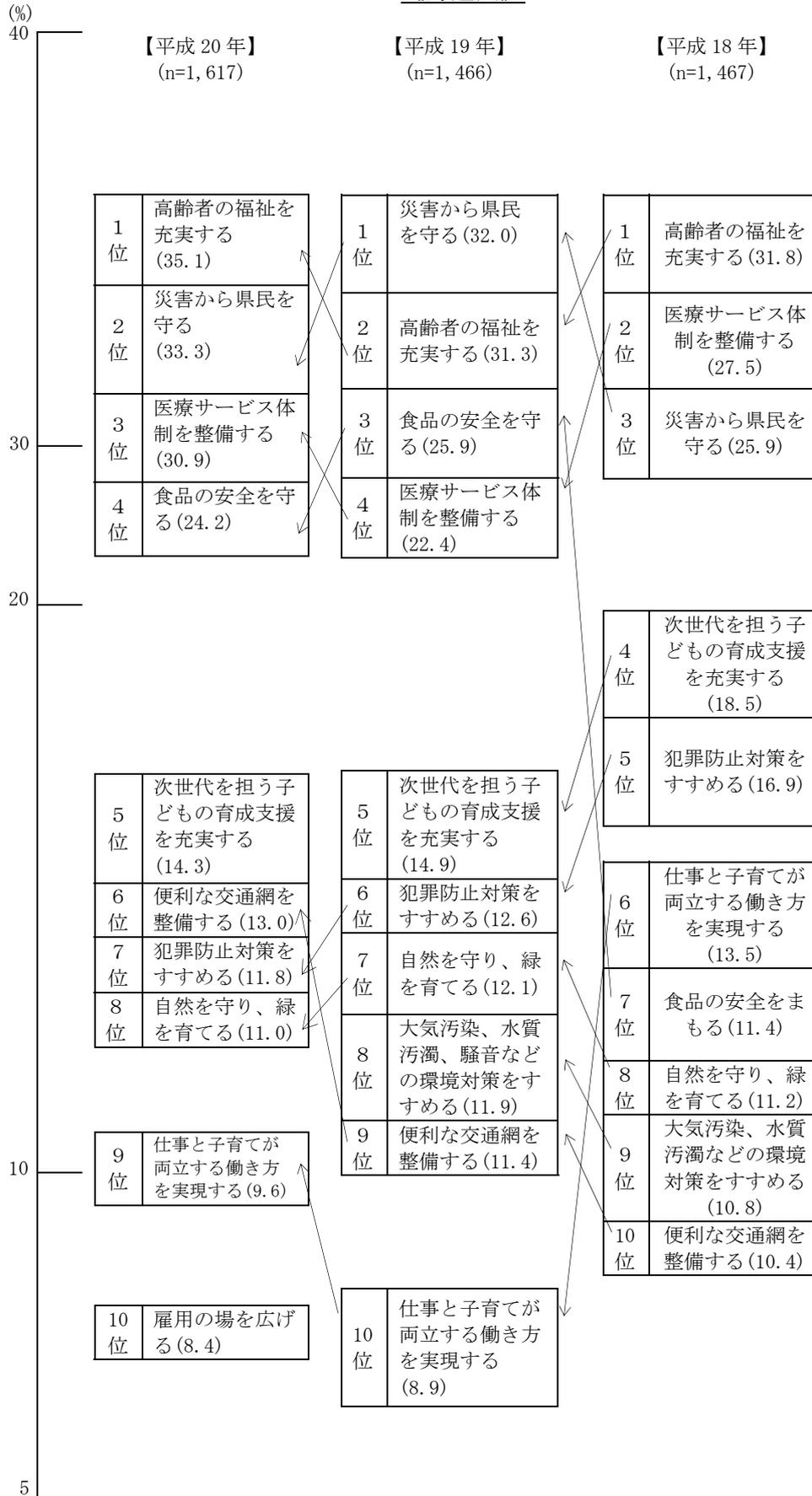


今回調査の主な特徴

1. 「高齢者の福祉を充実する」(35.1%)、「災害から県民を守る」(33.3%)、「医療サービス体制を整備する」(30.9%)はいずれも3割を越え、県民の要望が特に高い。
2. 「高齢者の福祉を充実する」が昨年2位から1位、「災害から県民を守る」が昨年1位から2位となった。
3. また、「医療サービス体制を整備する」が昨年(22.4%)と比べ、8.5ポイント上昇し3位となった。
4. 「食品の安全を守る」は昨年3位(25.9%)から4位(24.2%)となったが、引き続き高い比率となっている。

■ 県政への要望／上位 10 項目の推移

《郵送法》

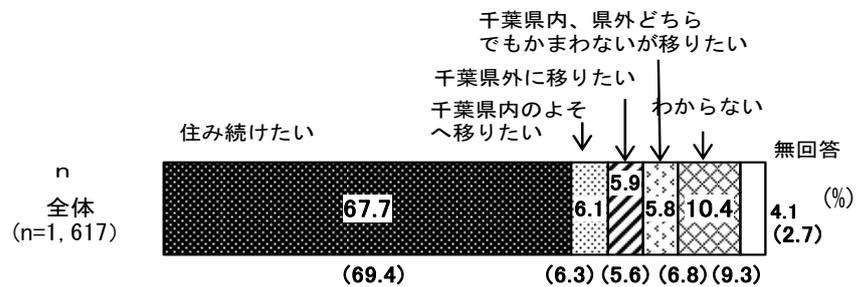


2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在住まいの地域に、今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(67.7%)が約7割である。一方で、「千葉県内のよそへ移りたい」(6.1%)、「千葉県外に移りたい」(5.9%)、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.8%)とした。

なお、「住み続けたい」(67.7%)と「千葉県内のよそへ移りたい」(6.1%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』方が73.8%で7割台半ばでした。

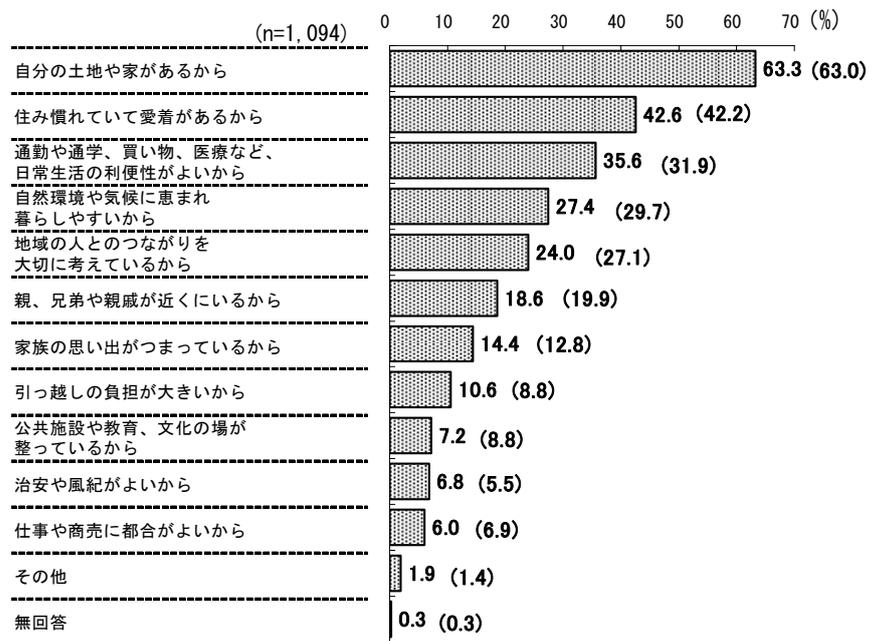


注) 下段の () 書きは、平成19年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,094人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(63.3%)が6割台半ばとなっており、これに「住み慣れていて愛着があるから」(42.6%)と「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(35.6%)が続く。

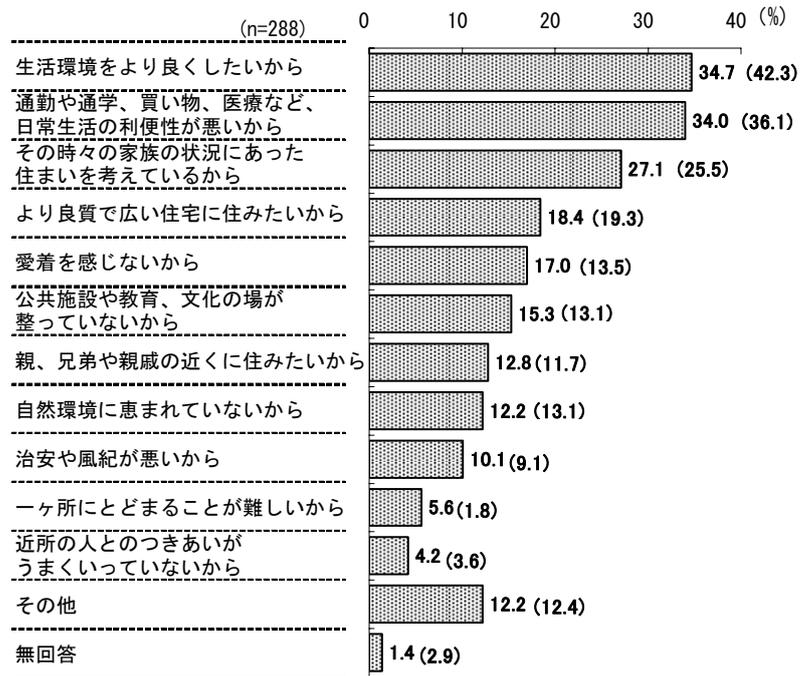


注) () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

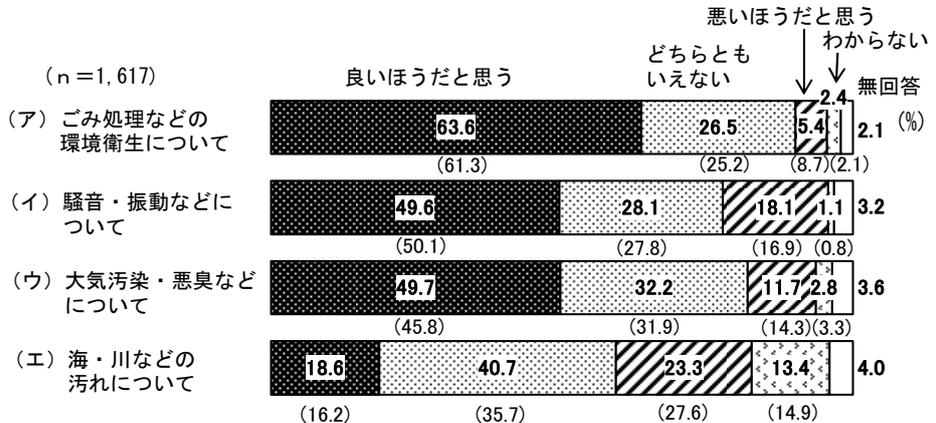
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した288人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(34.7%)が3割台半ば最も高く、これに「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(34.0%)と「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(27.1%)が続く。



注) () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(2) 生活環境について

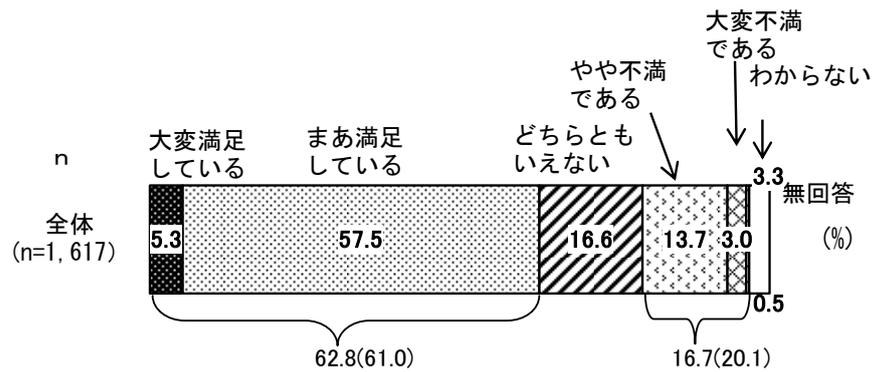
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、「ゴミ処理などの環境衛生について」(63.6%)で6割台半ばである。以下、「大気汚染・悪臭などについて」(49.7%)、「騒音・振動などについて」(49.6%)が約5割となっている。一方で、「海・川などの汚れについて」は、「良いほうだと思う」(18.6%)が約2割にとどまっている。



注) 下段の () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

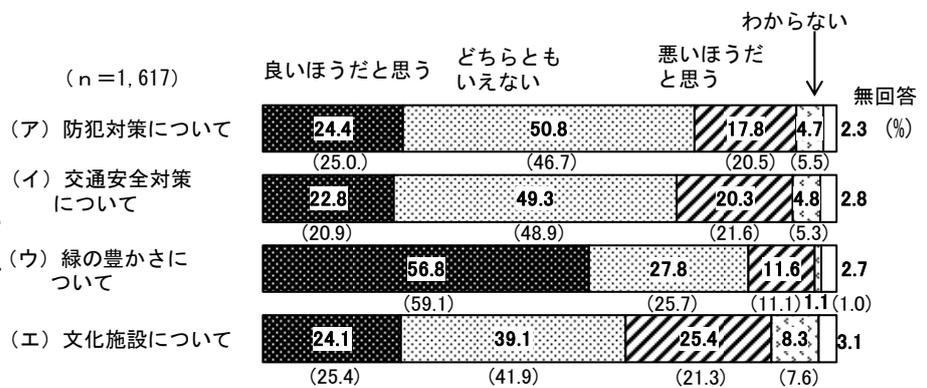
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(5.3%)と「まあ満足している」(57.5%)を合わせた『満足している』(62.8%)は6割を超えている。一方、「やや不満である」(13.7%)と「大変不満である」(3.0%)を合わせた『不満である』(16.7%)は1割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成19年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

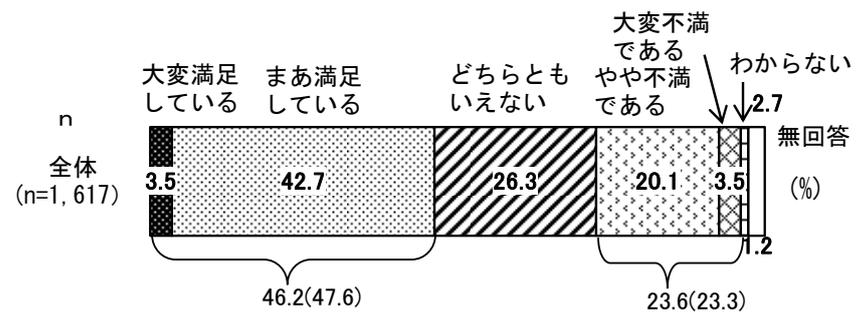
自然・周辺環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、「緑の豊かさについて」(56.8%)で5割台半ばとなっている。しかし、それ以外の3項目については、「良いほうだと思う」がいずれも2割台となっている。



注) 下段の () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

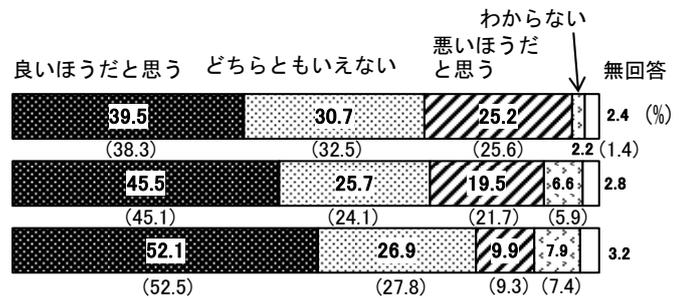
自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(3.5%)と「まあ満足している」(42.7%)を合わせた『満足している』(46.2%)は4割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(20.1%)と「大変不満である」(3.5%)を合わせた『不満である』(23.6%)は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成19年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

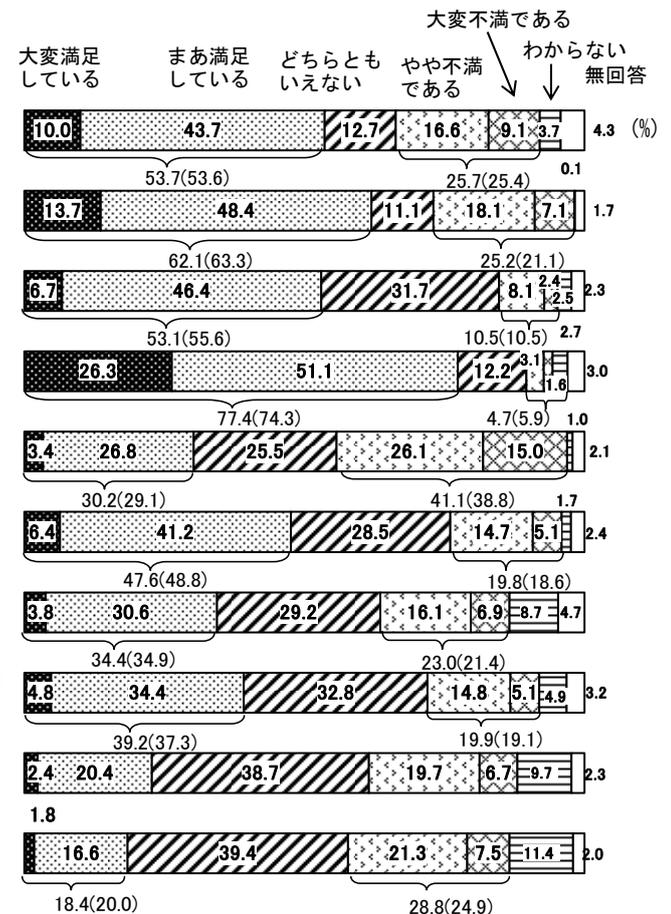
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(52.1%)で5割を超える。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(45.5%)が4割台半ばとなっている。〈道路の整備〉については、「良いほうだと思う」(39.5%)が約4割にとどまっている。



注) 下段の()書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(7) 現在の生活の満足度

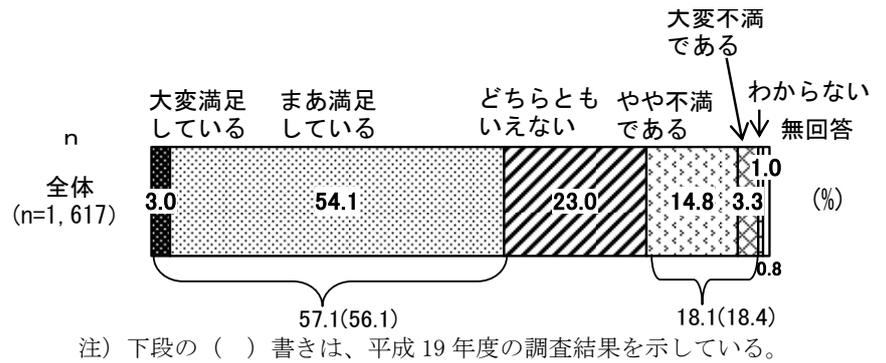
現在の生活に関する10個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(77.4%)で約8割となっている。以下、〈買い物(通学)の便について〉(62.1%)、〈通勤・通学の便〉(53.7%)と続く。「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』とすると、10項目中7項目で『満足している』が『不満である』より多い中、〈収入や預貯金など経済的な面について〉、〈芸術や文化に親しむ機会について〉、〈災害の危険度について〉は、『不満である』が上回っている。



注) 下段の()書きは、平成19年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

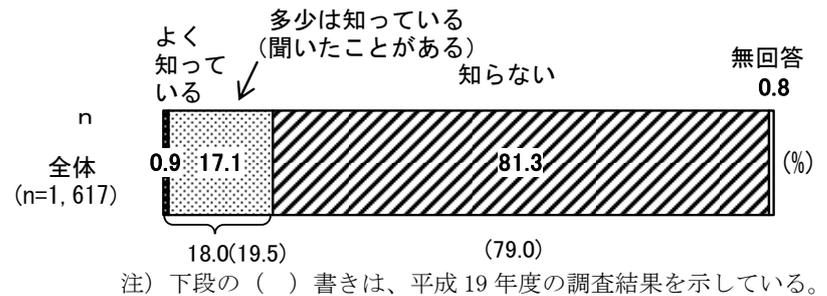
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.0%）と「まあ満足している」（54.1%）を合わせた『満足している』（57.1%）は約6割と多くなっている。一方、「やや不満である」（14.8%）と「大変不満である」（3.3%）を合わせた『不満である』（18.1%）は約2割である。



3 健康と福祉について

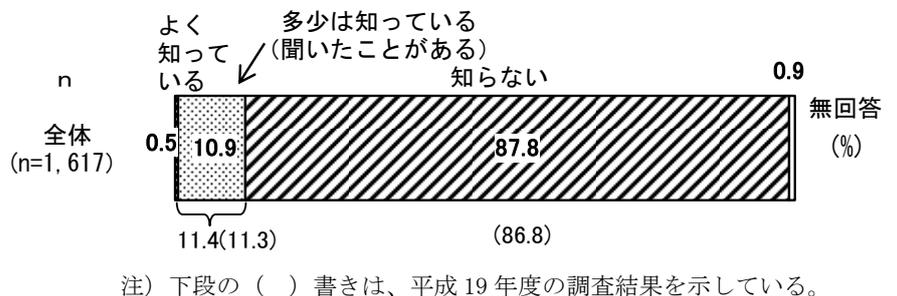
(1) 「新たな地域福祉像」の認知度

「新たな地域福祉像」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」（0.9%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（17.1%）を合わせた、『知っている』（18.0%）が約2割となっている。一方で、「知らない」（81.3%）は8割を超える。



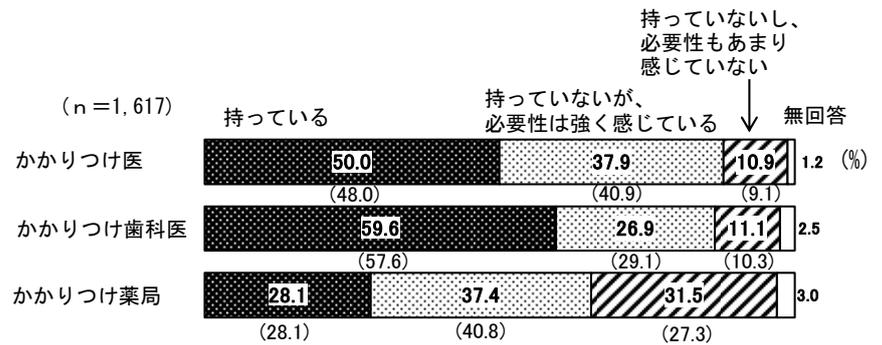
(2) 「健康福祉千葉方式」の認知度

「健康福祉千葉方式」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」（0.5%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（10.9%）を合わせた『知っている』（11.4%）は1割を超える。一方で、「知らない」（87.8%）は約9割である。



(3) かかりつけ医の有無

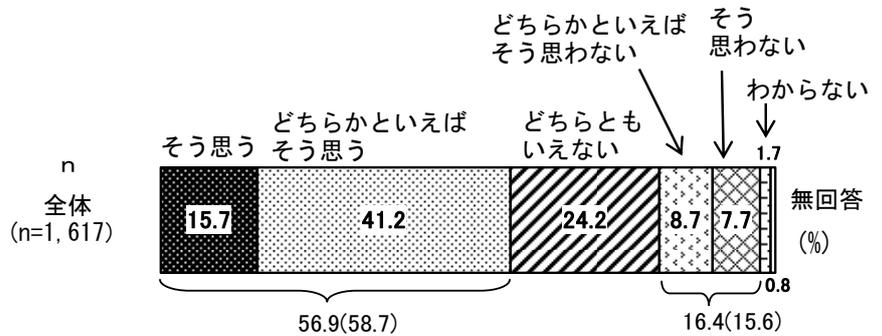
かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は、歯科医 (59.6%) で約6割、医師 (50.0%) で5割だが、薬局 (28.1%) では約3割である。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は、医師 (37.9%) と薬局 (37.4%) で約4割となっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は、薬局 (31.5%) で3割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(4) ありのままの姿での生活

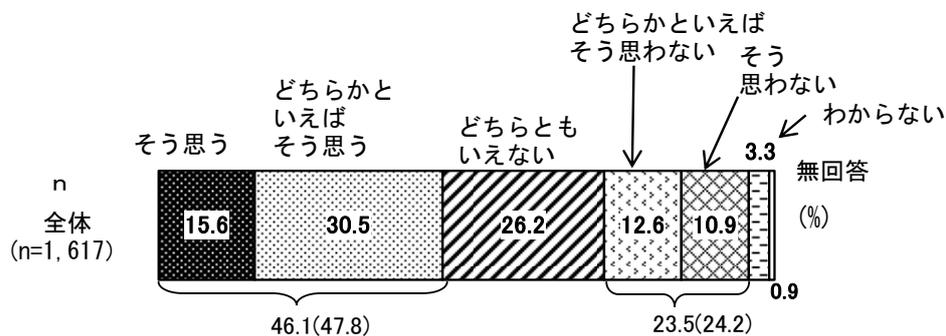
自身がありのままの姿で生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」(15.7%) と「どちらかといえばそう思う」(41.2%) を合わせた『そう思う』(56.9%) が5割代半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.7%) と「そう思わない」(7.7%) を合わせた『そう思わない』(16.4%) は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(5) 健康づくりに取り組むことができる環境

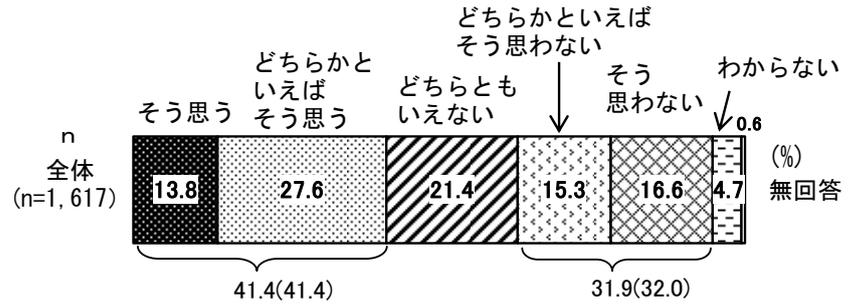
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(15.6%) と「どちらかといえばそう思う」(30.5%) を合わせた『そう思う』(46.1%) は4割代半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.6%) と「そう思わない」(10.9%) を合わせた『そう思わない』(23.5%) は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(6) 安心して受診できる医療体制

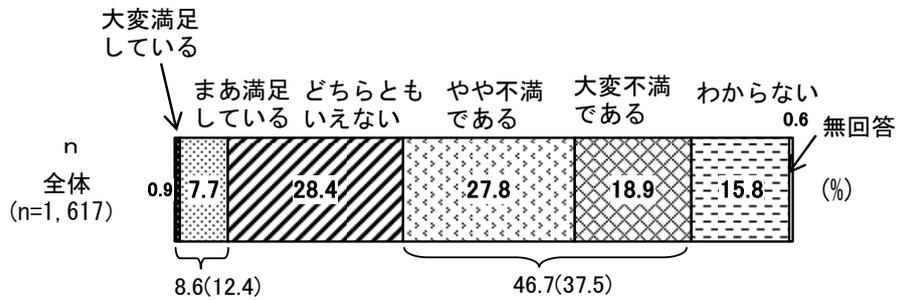
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.8%)と「どちらかといえばそう思う」(27.6%)を合わせた『そう思う』(41.4%)は4割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.3%)と「そう思わない」(16.6%)を合わせた『そう思わない』(31.9%)も3割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(7) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度

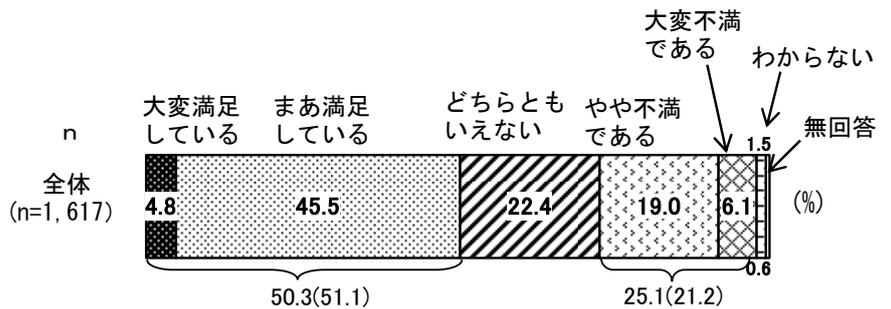
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(0.9%)と「まあ満足している」(7.7%)を合わせた『満足している』(8.6%)が約1割。一方、「やや不満である」(27.8%)が約3割で、「大変不満である」(18.9%)が約2割で、これらを合わせた『不満である』(46.7%)は4割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(8) 自分や家族の健康についての満足度

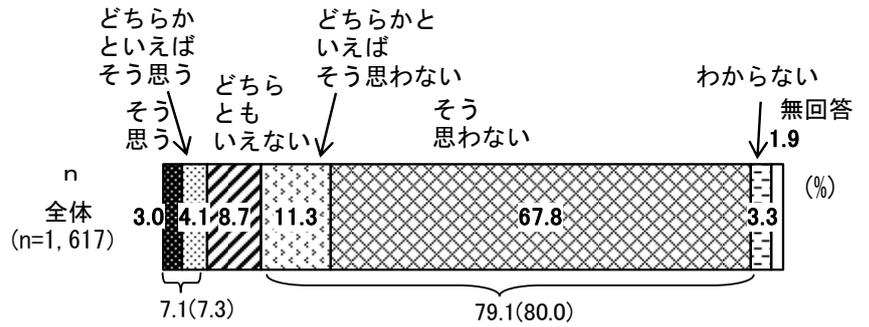
自分や家族の健康についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.8%)と「まあ満足している」(45.5%)を合わせた『満足している』(50.3%)が5割である。一方、「やや不満である」(19.0%)と「大変不満である」(6.1%)を合わせた『不満である』(25.1%)も2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(9) 理不尽な理由による差別等

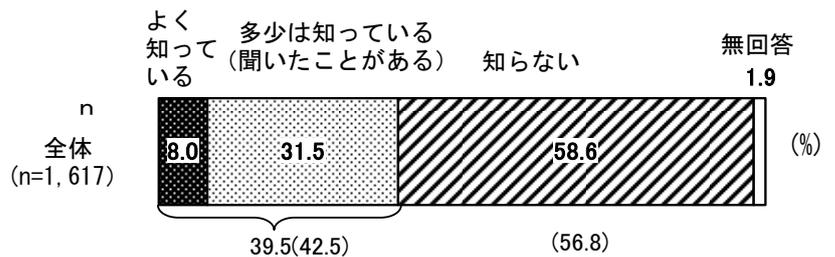
自分が理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.0%)と「どちらかといえばそう思う」(4.1%)を合わせた『そう思う』(7.1%)は約1割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.3%)と、最も多い「そう思わない」(67.8%)を合わせた『そう思わない』(79.1%)が約8割となっている。



4 千葉県の農産物について

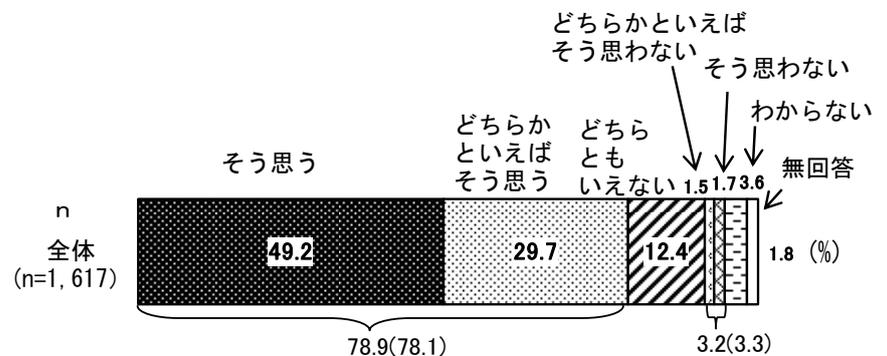
(1) 「ちばエコ農産物」の認知度

「ちばエコ農産物」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(8.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(31.5%)を合わせた『知っている』(39.5%)が約4割である。一方、「知らない」(58.6%)は約6割となっている。



(2) 千葉県産農産物の購入意向

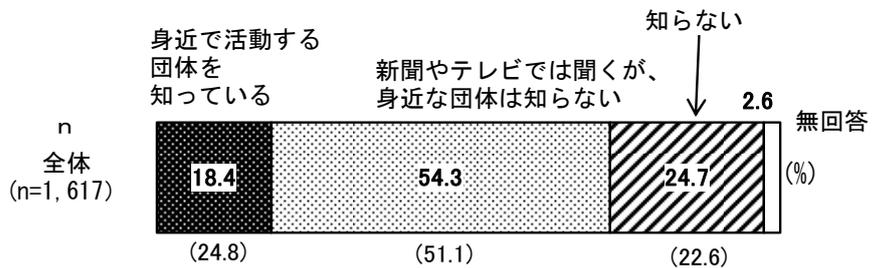
千葉県産農産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(49.2%)が約5割で最も多く、「どちらかといえばそう思う」(29.7%)が3割を超える。これらを合わせた『そう思う』(78.9%)は約8割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.5%)と「そう思わない」(1.7%)を合わせた『そう思わない』(3.2%)はわずかである。



5 市民活動について

(1) 市民活動団体の認知度

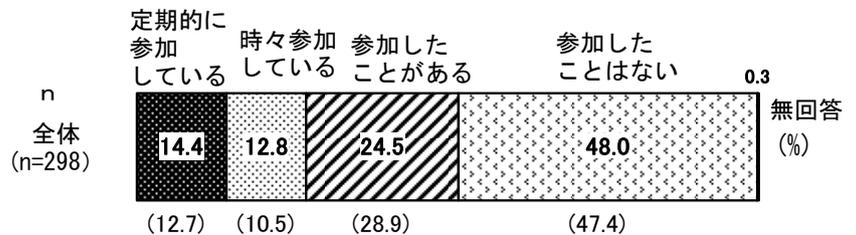
市民活動団体の認知度を聞いたところ、「身近で活動する団体を知っている」(18.4%)が約2割となっている。一方、「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」(54.3%)は5割台半ばで最も多い。「知らない」(24.7%)が2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(1-1) 市民活動への参加経験

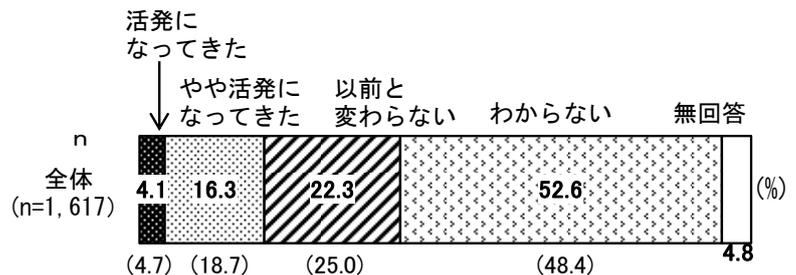
「身近で活動する団体を知っている」と回答した 298 人を対象に、市民活動への参加状況を聞いたところ、「定期的に参加している」(14.4%)と「時々参加している」(12.8%)を合わせた『参加している』(27.2%)が約3割である。一方、「参加したことがある」(24.5%)は2割台半ば、「参加したことはない」(48.0%)が約5割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(2) 市民活動の地域での状況

市民活動の地域での状況を聞いたところ、「活発になってきた」(4.1%)と「やや活発になってきた」(16.3%)を合わせた『活発になってきた』(20.4%)が2割となっている。一方、「以前と変わらない」(22.3%)は2を超える。なお、「わからない」(52.6%)は5割を超える。

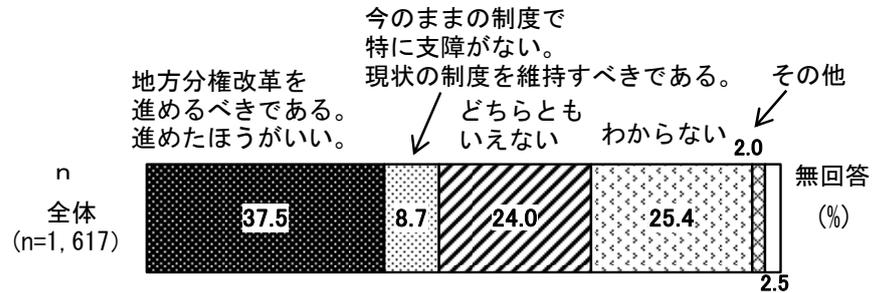


注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

6 地方分権について

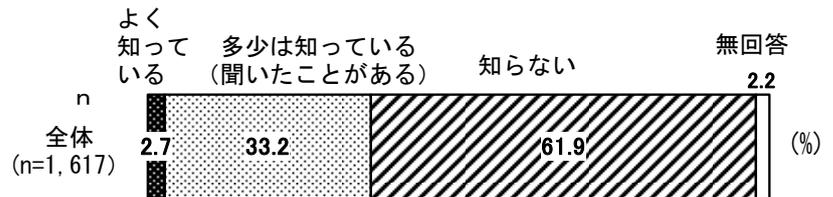
(1) 「地方分権改革」を今後さらに進めていくべきか否か

地方分権改革を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権改革を進めるべきである。進めたほうがいい」(37.5%)が約4割となっている。一方、「今のままの制度で支障がない。現状の制度を維持すべきである」(8.7%)は約1割。「どちらともいえない」(24.0%)、「わからない」(25.4%)が2割台半ばとなっている。



(2) 「地方分権改革」への取り組み認知度

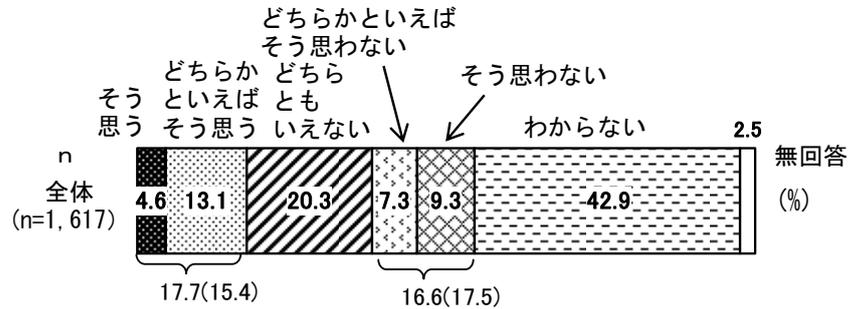
地方分権改革の取り組みの認知度を聞いたところ、「よく知っている」(2.7%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(33.2%)を合わせた『知っている』(35.9%)が3割台半ばである。一方、「知らない」(61.9%)は6割を超えている。



7 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

政策評価が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.6%)と「どちらかといえばそう思う」(13.1%)を合わせた『そう思う』(17.7%)は約2割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)と「そう思わない」(9.3%)を合わせた『そう思わない』(16.6%)は1割台半ばとなっている。また、「わからない」(42.9%)が4割を超える。

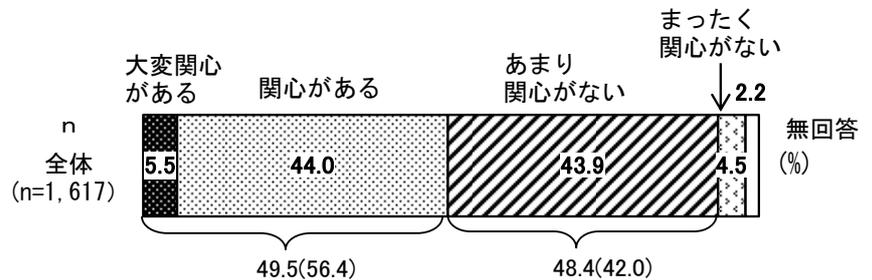


注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

8 広報・広聴活動について

(1) 県の政策や施策などについての関心度

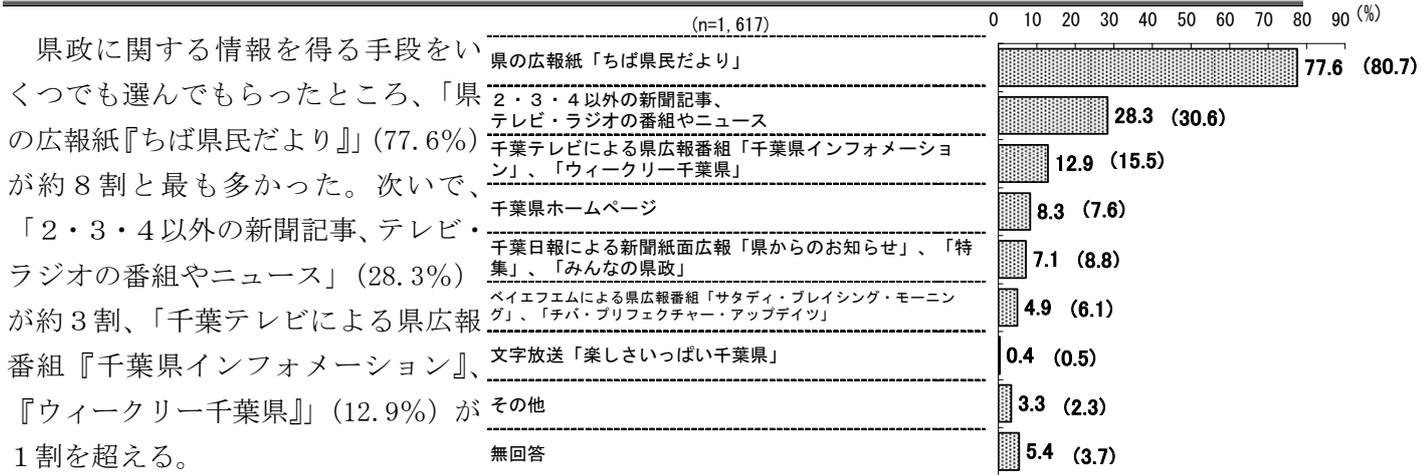
県の政策や施策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」が5.5%で、「関心がある」(44.0%)が4割で台半ばである。これらを合わせると、『関心がある』(49.5%)は約5割である。一方、「あまり関心がない」が43.9%と「まったく関心がない」の4.5%を合わせた『関心がない』(48.4%)も約5割である。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

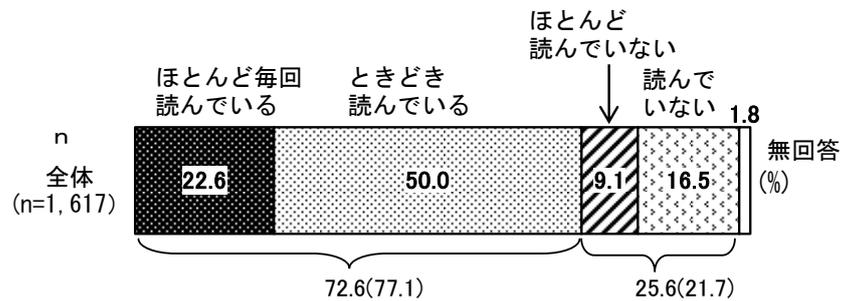


注) () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(※「2・3・4以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、2・3・4とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」、「みんなの県政」』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県」』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタディ・ブレッシング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデート」』を指す)

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいます」(22.6%)は2割を超え、「ときどき読んでいます」(50.0%)が5割で最も多い。これらを合わせた『読んでいます』(72.6%)は7割を超えている。一方、「ほとんど読まない」(9.1%)と「読んでいない」(16.5%)を合わせた『読んでいない』(25.6%)は2割台半ばである。

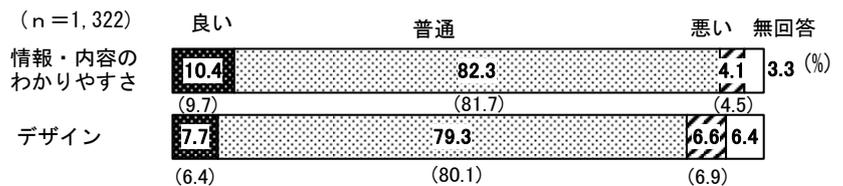


注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の調査結果を示している。

(3-1) 「ちば県民だより」の内容について

「ほとんど毎回読んでいます」、「ときどき読んでいます」、「ほとんど読まない」と回答した1,322人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、情報・内容のわかりやすさは、「良い」(10.4%)が1割、「普通」(82.3%)が8割を超えている。

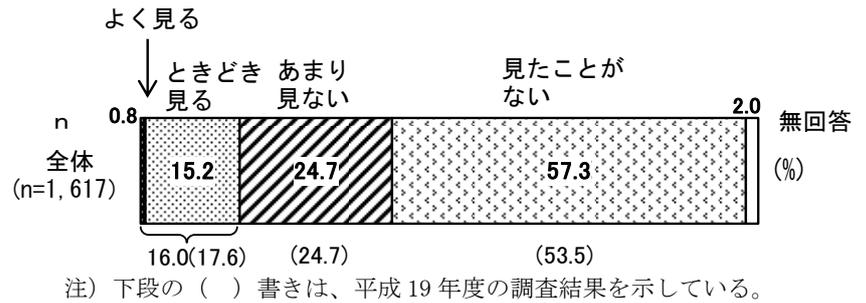
デザインの良さは、「良い」が7.7%で、「普通」(79.3%)が約8割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 19 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(4) 県の広報番組の視聴状況

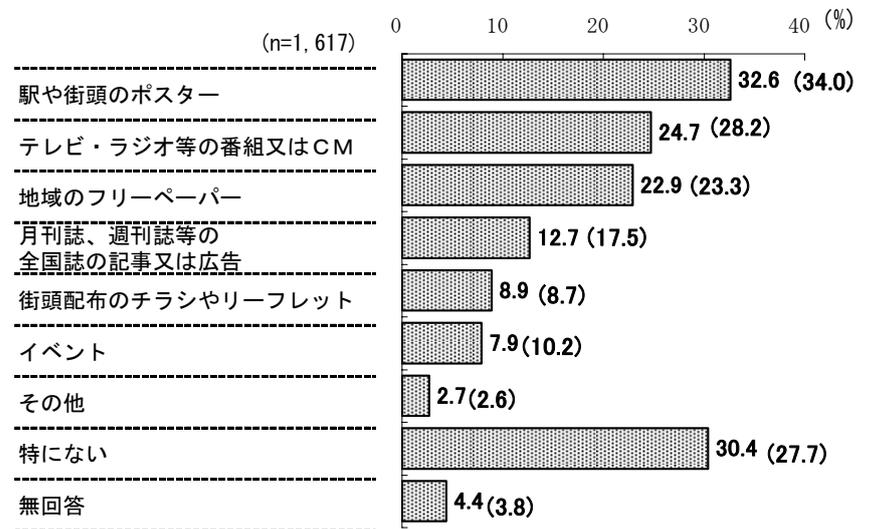
県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(0.8%)と「ときどき見る」(15.2%)を合わせた『見る』(16.0%)は1割台半ばである。一方、「あまり見ない」(24.7%)が2割台半ばで、「見たことがない」(57.3%)は約6割と最も多い。



(5) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答: いくつでも)

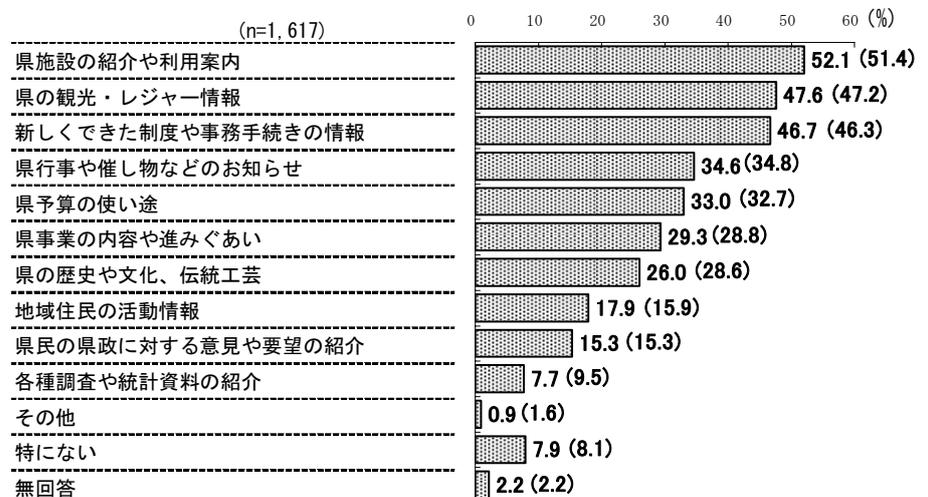
県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況をいくつでも選んでもらったところ、「駅や街頭のポスター」(32.6%)が3割を超えて最も多かった。次いで、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(24.7%)、「地域のフリーペーパー」(22.9%)となっている。



(6) 県の知りたい情報

(複数回答: いくつでも)

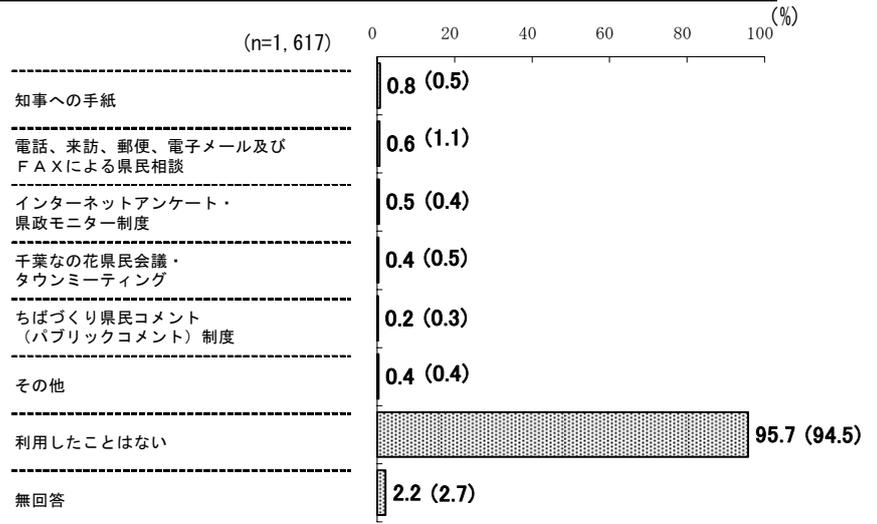
県について知りたい情報をいくつでも選んでもらったところ、「県施設の紹介や利用案内」(52.1%)が5割を超え高くなっている。次いで、「県の観光・レジャー情報」(47.6%)と「新しくできた制度や事務手続きの情報」(46.7%)が4割台半ばを超え、「県行事や催し物などのお知らせ」(34.6%)、「県予算の使い途」(33.0%)も3割を超えている。



(7) 知事への手紙などで意見を述べた経験

(複数回答：いくつでも)

知事への手紙などで意見を述べた経験をいくつでも選んでもらったところ、「利用したことはない」(95.7%)が9割台半ば、利用したことのあるものでは「知事への手紙」が0.8%、「電話、来訪、郵便、電子メール及びFAXによる県民相談」が0.6%、「インターネットアンケート・県政モニター制度」が0.5%、「千葉の花県民会議・タウンミーティング」が0.4%、「ちばづくり県民コメント(パブリックコメント)制度」が0.2%となっている。

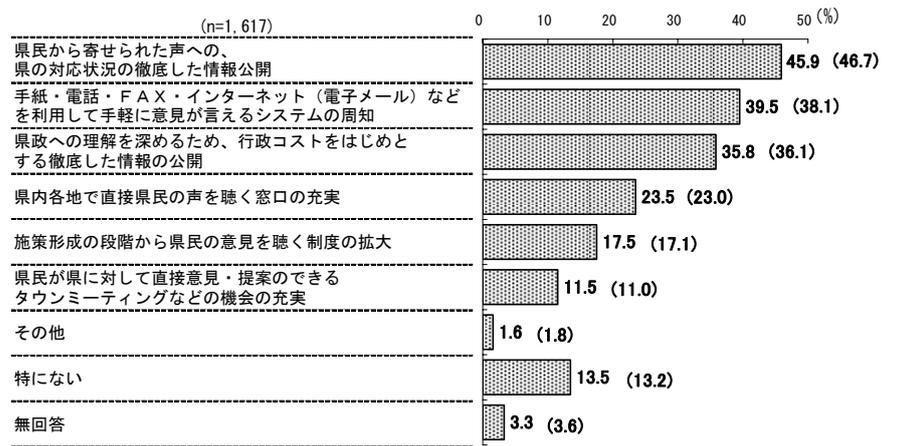


注) () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

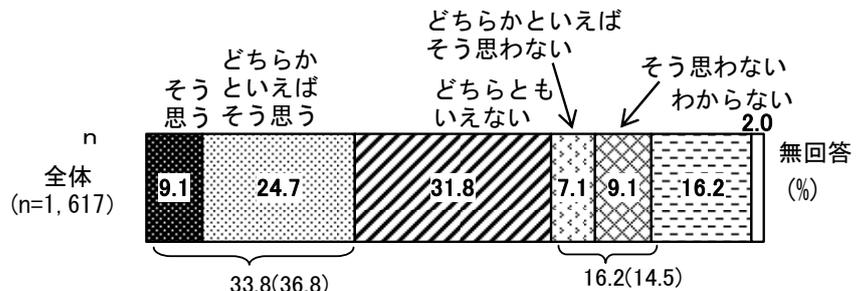
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(45.9%)が4割台半ばとなっており、これに「手紙・電話・FAX・インターネット(電子メール)などを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(39.5%)と「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(35.8%)が続き、これに「県内各地で直接県民の声を聴く窓口の充実」(23.5%)、「施策形成の段階から県民の意見を聴く制度の拡大」(17.5%)、「県民が県に対して直接意見・提案のできるタウンミーティングなどの機会の充実」(11.5%)、「その他」(1.6%)、「特になし」(13.5%)となっている。



注) () 書きは、平成19年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(9.1%)と「どちらかといえばそう思う」(24.7%)を合わせた『そう思う』(33.8%)は3割台半ばとなっている。「そう思わない」(9.1%)と「どちらかといえばそう思わない」(7.1%)を合わせた『そう思わない』(16.2%)は1割台半ばである。



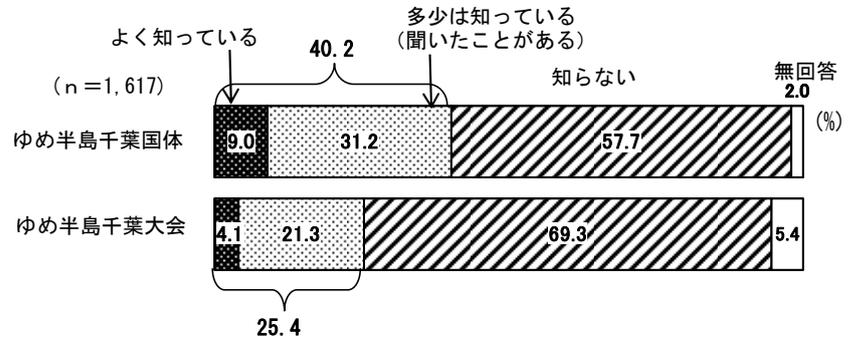
注) 下段の () 書きは、平成19年度の調査結果を示している。

9 国体・全国障害者スポーツ大会について

(1) 国体・全国障害者スポーツ大会認知度

「ゆめ半島千葉国体」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(9.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(31.2%)を合わせた『知っている』(40.2%)は4割ある。一方、「知らない」(57.7%)は約6割。

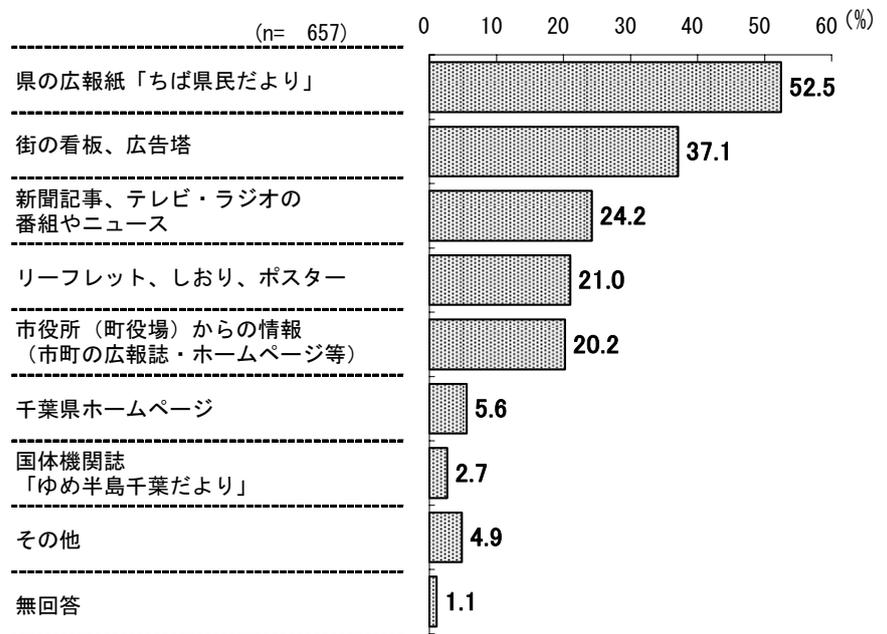
また、「ゆめ半島千葉大会」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(4.1%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(21.3%)を合わせた『知っている』(25.4%)は2割台半ばである。一方、「知らない」(69.3%)は約7割となっている。



(1-1) 国体・全国障害者スポーツ大会を知った手段

(複数回答：いくつでも)

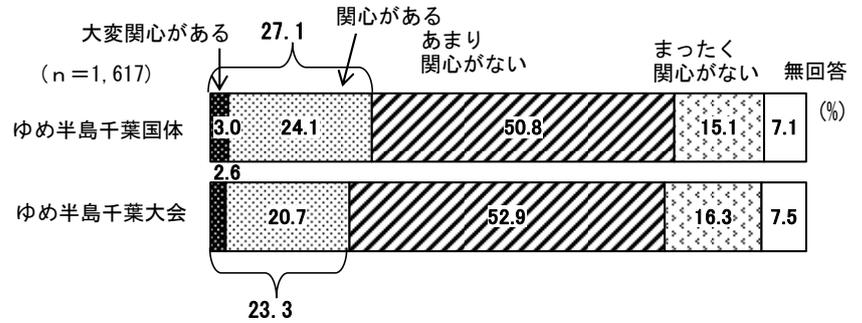
両大会を「よく知っている」、「多少は知っている(聞いたことがある)」と回答した657人を対象に、両大会を知った手段をいくつでも選んでもらったところ、「県の広報誌「千葉県民だより」」(52.5%)が5割を超えており、これに「街の看板、広告塔」(37.1%)と「新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(24.2%)が続く。



(2) 国体・全国障害者スポーツ大会関心度

「ゆめ半島千葉国体」の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(3.0%)と「関心がある」(24.1%)を合わせた『知っている』(27.1%)は約3割である。一方、「あまり関心がない」(50.8%)、「まったく関心がない」(15.1%)を合わせた『関心がない』(65.9%)は6割台半ばである。

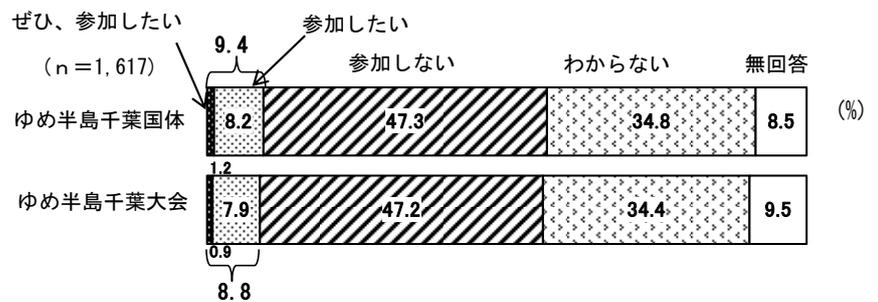
「ゆめ半島千葉大会」の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(2.6%)と「関心がある」(20.7%)を合わせた『関心がある』(23.3%)は2割台半ばである。一方、「あまり関心がない」(52.9%)、「まったく関心がない」(16.3%)を合わせた『関心がない』(69.2%)は約7割である。



(3) おもてなし活動参加意向

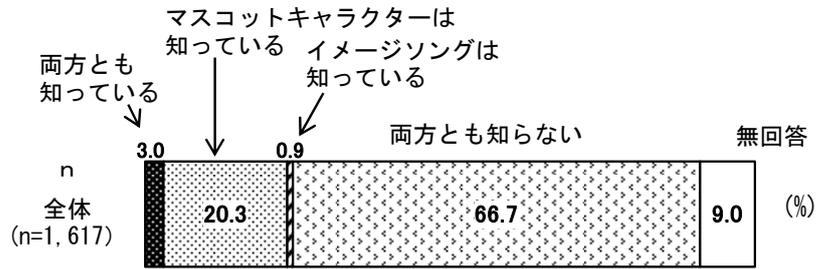
「ゆめ半島千葉国体」の「おもてなし活動」参加意向を聞いたところ、「ぜひ、参加したい」(1.2%)と「参加したい」(8.2%)を合わせた『参加したい』(9.4%)は約1割である。一方、「参加しない」(47.3%)は約5割で、「分からない」(34.8%)は3割台半ばであった。

「ゆめ半島千葉大会」の「おもてなし活動」参加意向を聞いたところ、「ぜひ、参加したい」(0.9%)と「参加したい」(7.9%)を合わせた『参加したい』(8.8%)は約1割である。一方、「参加しない」(47.2%)は約5割で、「分からない」(34.4%)は3割台半ばであった。



(4) マスコットキャラクター・イメージソング認知度

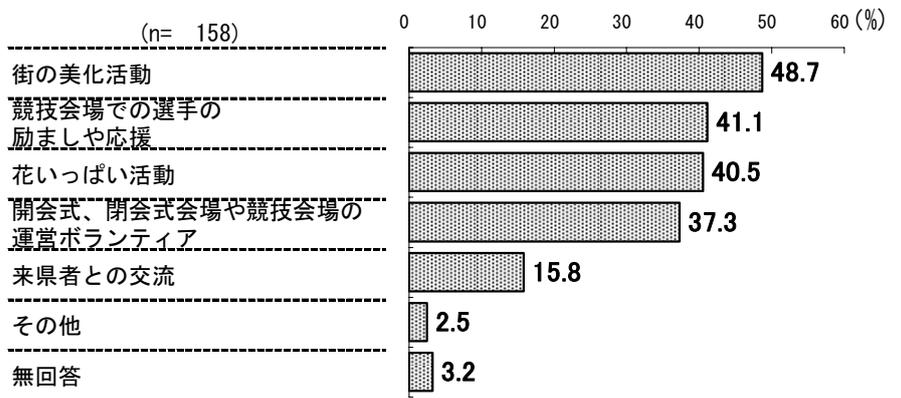
両大会のマスコットキャラクターは『チーバくん』、イメージソングは『CARNAVAL (カレヴァル) ～すべての戦う人たちへ～』であることを知っているかどうかを聞いたところ、「両方とも知っている」は3.0%であった。「マスコットキャラクターは知っている」20.3%で、「イメージソングは知っている」が0.9%であった。「両方とも知らない」(66.7%)は6割台半ばであった。



(5) おもてなし活動内容

(複数回答：いくつでも)

両大会のおもてなし活動を「ぜひ、参加したい」、「参加したい」と回答した158人を対象に、参加したいおもてなし活動内容をいくつでも選んでもらったところ、「街の美化活動」(48.7%)が約5割で、これに「競技会場での選手の励ましや応援」(41.1%)と「花いっぱい活動」(40.5%)が続いている。



【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、405人から延べ483件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○今後、景気の後退により税収が落ち込んでいくのは確実であります。現在、進行中あるいは計画中的である事業や政策等、再度見直していただき、本当に必要で県民にとって意義あるものを進めていくようにしてほしい。（男性・30代・中央地域）

■便利な交通網を整備する

○都内へ向かう成田線、京成線の電車の本数が少なすぎる。都内への勤務する者としてはとっても不便です。（女性・40代・東地域）

■医療サービス体制を整備する

○65歳以上になり、悪性腫にかり、現在かかりつけ医を持つことができ、本当に助かっています。今より以上医療の充実をはかって頂きたいと思います。（男性・60歳以上・西地域）

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者対策をより充実させてください。生きがい支援、働きがい支援、特に介護と医療体制に予算を充実させて。行政への住民参加。（男性・50代・中央地域）

■道路を整備する

○高速道路の延長を長い間待ち望んでおります。千葉市に出るまで往復で4時間は大変です。離れている地域にこそ、目を向けて欲しいです。ますます離れ小島になってしまいます。（女性・50代・東地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○市の広報などはよく読んでいますが、県の広報となると広範囲になるので、なかなか身近に感じにくいところがあります。市民であると同時に県民であることを市を通してアピールし、情報をお知らせしていただければ助かります。（女性・40代・西地域）

■調査に関して

○この調査の設問を受け、日常生活をあまりにも無意識に過ごしていたなと思った。もう少し広い視野で県民と言う意識を感じつつ生活したいなと思った。質問により自分を見た感じだ。これからは少しでも協力できることがあれば多方面で気をつけたいと思います。ありがとうございました。（女性・60歳以上・東地域）

■住んでいる市町村への要望

○県、△△市の行政サービスの仕切りが理解出来ていない。税収入が増加することは期待できない。箱物行政はやめる。効率的な配分を考える。市と県が助け合って、きれいな街づくりに施策計画。下水道完備、および地下電線、通信線に変更する。県民は県に何かをしてもらうという意識ではなく、市、県に協力できることは何かと考えるような運動をしてはどうだろうか？（男性・60歳以上・西地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○千葉県は高齢者への支援・対策は進んでいると思う。が、子供（家庭）への政策が乏しいように感じる。未来を作っていくのは若い世代であり、子供たちである。そこへも力を入れて欲しい。子供のパワーは地域のパワーになり、活気ある町の高齢者の方が結果的には幸せではないか？（女性・20代・中央地域）